キャンパスレポーターが行く！

研究室訪問

第7回＊医学部看護学科（地域看護学領域）

**** 井手知恵子教授プロフィール****

○氏　　名：井手知恵子（イデ　チエコ）

○所　　属：大分大学医学部看護学科
基礎基盤学講座　地域看護学領域

○専　　門：地域看護学，公衆衛生看護学

○最終学歴：千葉大学大学院看護学研究科
博士課程

○主な研究：保健所・市町村保健師の活動方法や活動体制，保健師の現任教育，地域看護管理，地域看護学・家族看護学の教育方法に関する研究など。

キャンパスレポーターの大分大学医学部看護学科２年の平野智美です。大分東明高校２年の平岡弥子と田平栞菜と橋本智佳です。私たちは大分東明高校の先輩後輩です。今回は、私たち４名が医学部看護学科の井手知恵子先生の研究室を訪問して，先生の仕事のことや先生個人のことなどについてインタビューします。

平野：まず先生の仕事について質問がある方はどうぞ。

平岡：先生は現在主にどのような研究をされているのですか。

井手：私自身が行政機関の保健師を長くしていたので、公衆衛生看護とか行政の組織の中にいる看護職の活動体制とか活動の方法についての研究をしています。

平岡：私は保健師に興味を持っているんですが、看護師と保健師の資格は同時に取れるんですか。

井手：はい、取れます。今は各大学が独自のカリキュラムを組んで教育を進めています。大分大学医学部看護学科では、この二つの免許の受験資格が同時に取れるカリキュラムになっています。ただし，大学では保健師や看護師の免許を取ることが最終目的ではなくて、質の高い看護を実践できる人に育っていってもらうことが大事な目標だと考えています。

平野：ほかに養護教諭の資格も取れることは知っていますか。

平岡・田平・橋本：知らなかったです。

平野：保健室の先生の資格も取れるようになっているんですよ。

井手：そうですね。保健師の免許を取ることによって自動的に養護教諭の２種免許も取れるんです。実際には都道府県の教育委員会に行って、保健師の免許を持っているので養護教諭の２種免許も申請するという手続きになります。１種免許が取れる看護大学もあるんですけれども、本学では保健師の免許を取って養護教諭の２種免許を取るということになっています。

平野：先生の研究について，その他の質問はありますか。

井手：看護の研究って、イメージが湧かないですよね。何をするんだろうって。自然科学とかだと何か実験をするとかいうのがあるかもしれないけど。勿論看護でも実験的な研究だとかはあるんですけども、看護の研究というのは、おおむね看護の実践をより良くしていくための知識を体系化していくための研究ですね。看護学の発展のためです。なので私は、保健師さんたちの実践の中で役に立つような、目の前にいる患者さんのために何とかしようと思って、そこにある共通の方策だとか大事なことだとかいうことを言葉や形にしたりとかしていくということを目指

して研究をしています。

平野：難しい！

井手：難しい？　そうか。当たり前にやっていることがすごく良くできる人になっちゃうと、どうやってすれば良いかとかいうのはあまり考えないじゃないですか。皆さんは自転車に乗れる？

平岡・田平・橋本：はい、乗れます（笑）。

井手：例えば、小さい子たちに「自転車はどうやったら乗れるの？」と聞かれた時に、説明はどういうふうにします？

平岡・田平・橋本：うーん。

井手：「うーん」でしょう。それが実は自分の行動でとか経験で身に付けたものなんですね。
看護師さん達ってもちろん最初にいっぱい勉強をしているんだけど、実際に看護を実践しようと思った時には、もう勘とコツの世界で先に手が動いていたりするの、皆が自転車に乗るように。そうすると、自転車に乗るにはバランスが大事とか言うけど、コツとしては、「足元を見ちゃ駄目よ、遠くを見るのよ」とか、「行きたい方向を見たらそっちに行くよ」とか、「ちゃんと勢いをつけなきゃ駄目よ」とかいう原理原則があるじゃないですか。そのことをちゃんと形にしていく。看護にしても形にしていく、そんなものだと思う。今、看護はどんどん変わっていっているし、世の中の役に立つためにはいろんなそういった知識体系をたくさん持っておかないといけないかなということなんですね。高校生には、もうちょっと分かりやすい言葉を使ったほうが良かった？

橋本：でも分かりました。

井手：良かった。

平野：最初に先生がおっしゃっていた保健師の研究について、何か質問がありますか。仕事内容とか、どういう所で働いているとか。

田平：看護師と何が違うんですか。

井手：難しいですね、その質問は。どういうふうに答えたら一番分かりやすいかな。まず一番違うのは、働いている所が違いますね。看護師さんは90%以上が病院や診療所に勤めていますね。看護師資格で働く所はそこになります。だからといって、うちの卒業生もそうですけど、今は看護大学を卒業し保健師免許を持っている人も看護師資格で働いている人がたくさんいますね。保健師資格で雇われている人たちというのは、圧倒的に都道府県とか市町村といった行政機関が多く、そのほかに産業、企業だったり、それから今はいろんな福祉施設だったり、開業している人も若干出てきていたりということはありますね。保健指導をするようなNPO法人を立ち上げたりとか、いろんな活動をされている方も増えてきています。だったよね？

平野：はい、そう教えていただきました。

井手：じゃあ仕事の内容はどう違うのかというと、病気になっている人とか傷ついている人たちのケアをするのが看護師さんなので、保健師さんはどちらかというとその予防であったりとか、病院に入る前とか、悪くなる前とか、あるいは病院から地域の自分の生活に戻った時にその支えをするとか、普通に生活をしている人たちの地域での看護師というふうな考え方もできますね。そういう地域看護学というのが私の専門になっています。

平野：確かにその講義を聞いていた時も、看護師さんも勿論そうなんですけど、保健師さんの方がより長く患者さんや対象の方と向き合って息の長いケアを行うという感じがしたんですね。

井手：そうですね。病気がある人がどうしても患者さんなので、そこは患者というよりもクライアントとか対象者とかいわれるかと思いますね。そのとおりの捉え方で間違いないと思います。

平野：他に何か質問はありますか。

橋本：大分大学では、看護師さんになるのと保健師さんになるのとはどっちの方が多いですか。やっぱり看護師さんになるのですか。

井手：当面はやっぱり看護師さんが多いですね。何年間か看護師をした後に保健師をしているという人も多数いるようなんですが、その実態というのがまだ把握できていないので、ぜひ卒業生の調査をしようと思っています。でもたくさん保健師になってくれているような気がします。といっても半分を超えているとか、そんなことはないですよ。卒業する時には大体１割くらいかな。

全員：少ない。

井手：少ないですね。それはやっぱり保健師の求人が少ないということと、どの病院も看護師を早く採用したいので、皆さん就職がどんどん決まっていっちゃうんです。「保健師に空きがあるかもしれないから待ったら？」と言っても、不安で「とりあえず看護師をやります」と。若い時じゃないとできないという先入観もあるみたいで、看護師を先にするという卒業生が多いですね。でも「行ってみたら、こんなにひどくなる前に何とかならなかったのかなあと思って、やっぱり保健師になりたいと思いました。」なんて言ってもらうと、地域看護を教えていた人間は良かったなと思うんですけどね。

平野：他に何か質問がありますか。

橋本：保健師になるための特別な授業みたいなのを別にしているんですか。

井手：それは無いですね。皆同じように講義を全部受けたら、その中に保健師のことも全部入っているので，特別に選択科目とかにはなっていません。本学では看護学科の先生たち全員が看護師の教育にも保健師の教育にも携わっているというふうに言えます。地域看護はその中で、行政の中で働く特性、特質だとか特徴だとかというところをうまく使いながら看護学を学んでもらうというスタンスで教えています。

平野：もうひとつ前の話に戻るんですけど、保健師とか養護教諭の話で卒業生も来て講義をしてくださる時がありますよね。そういった繋がりはどうやって持たれているんですか。

井手：実習で県下全ての保健所と、それから順番で全ての市町村に行かせていただいているんですね、今。だから実習指導に行ったところに卒業生がいると「元気にしている？最近どう？」とかというふうに聞いて、「頑張っているね、今度ぜひうちで話してくれない？」とかというふうに頼んだりしています。

平野：ありがとうございます。それでは後半に移りたいと思います。先生個人のことについての質問はありますか。

平岡：先生の趣味を教えてください。

井手：趣味！無趣味ですね。寝ることですかね。本当に趣味ってあまりなかったんですけども、ふらっとコンサートとかライブとかに行くことですかね。あとは観劇とか歌舞伎に行ったりとか。趣味ってそのぐらいかな。あとは夫の相手ですかね。

全員：（笑）

平野：趣味の話なんですけど、先生もよく講義中とかでちょくちょく自分の体験談だったり趣味の話だったりをしてくれるんですよ。自分に無いいろんなたくさんのことを先生から伝えていただけるので、楽しくいつも聞いています。

井手：ありがとう。

平野：ほかに質問はありませんか。

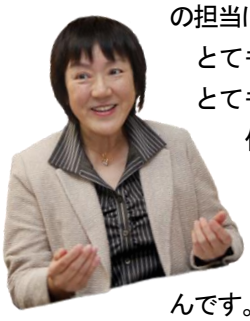
田平：先生が尊敬している人はいますか。

井手：尊敬している人？やっぱり自分の業界で考えると恩師の先生ですね。あとは父とか母とかいうところかな。大学人として尊敬しているのとは尊敬の意味が違うかもしれないけども、私を生んでくれて育ててくれて、その意味では本当に尊敬しています。

平野：ほかに質問ありますか。

橋本：どうして大学の先生になろうと思ったんですか。

井手：　そうですね、よく聞いてくれましたね！大学の先生になろうと思ったのは、いろいろ事情があるんです。一番最初は自分が保健師をしていて、学生指導の担当になって学生を連れていったりするととても楽しいんですよ。自分はこの仕事をとても誇りに思っているし、こんなふうな仕事をする人がもっと世の中に増えたらいいのにという願いがあって、でもそのためには、教育するというのも一つの手なのかなと思ったんです。たまたま恩師の紹介で短大の先生に初めてなってみたんですね。そこは看護師の勉強を３年間を終えて保健師になるためだけに１年間勉強する所だったんですが、４年制の大学でちゃんと教育するということにものすごく必要性を感じて、できるだけ早く４年制の教育をしたいなという思いがどこかにあったんですね。もう一つは、学校の先生になってみたら、“見て見て”の仕事がないんです。分かります？　私はこうやってやりましたよという事例を体験談で話すことはできるんだけど、実習に連れていって“一緒にやるよ”というわけにいかないんですね。ただ現場を見せればいいわけじゃなくて、頭を作っていったりとか考える力を付けていったりする必要があって、そのためにはと考えたら自分自身ももっと勉強をしなきゃと思って、博士課程に行くことにしたんですね。博士課程では２足のわらじが履けなくなって博士課程だけに専念した１年間があって、その後就職をどうしようかなと思ったら、「大分大学に来てほしいらしいよ」と言われて大分に来ることになりました。



橋本：大分出身じゃないんですか。

井手：そうなんですよ。最初は３年くらいかなと思って来たんです。ところが本当に大分は良いところで住み心地が良いなと思って、ふと気が付いたらもう１７年目ですね。そんな感じです。

平野：ほかに質問はありますか。

平岡：先生の思う看護師に向いている性格とかってどんな人だと思いますか。

井手：人が好きな人であれば良いんじゃないかなと思っています。人に関心を持って、自分のことと同じように、でも自分は自分できちんとやっていける人。でもそれって高校を卒業した時にすぐにできているわけではなく、たぶん大学に入って自分を磨いて心を磨いて頭を磨いてということになる。そういう“自己研鑽ができる人”が良いかなというふうに思っています。できれば、“その人のために何ができるかな”というふうに前向きに考えていける人が良いかなというふうに思っています。でも看護職って、明るい人がいたり静かな人もいたりいろんな人がいたほうが良いんですよ。だって，患者さんにも対象者の方にもいろんな人がいるから。

平野：次の質問で最後にしたいと思います。何かありますか。

橋本：先生のゼミ、講義というんですか、他の先生と違う点、特徴とかはありますか。

井手：他の先生と比べたことがあまりないのですが、うーん、何かある？

平野：印象としては、パワーポイントを見ているより、私たち学生の方を見て反応を伺いながら、「どう？

どこ？」みたいな感じで話してくれているイメージがあります。

井手：そうですか、ありがとうございます。学生に伝えたいことがたくさんあるんですよね。でもたくさん伝えても伝わらないんです。だから伝えたいことのポイントというのは押さえておいて、ここというところをやっぱり大事にしたいなというふうに思っています。できれば何が幹で何が葉っぱなのか、何が太い枝なのか、何が細い枝なのかということを峻別していけるような力を学生たちに付けてほしいなと思っているんです。

平野：ありがとうございます。いろいろと質問をしてきましたが、本日はお忙しいところとても貴重なお話をいただきありがとうございます。以上でインタビューを終わりたいと思います。

～～キャンパスレポーターを終えて～～

平野：私は、井手先生の講義を受けていて、研究内容については大体大枠は知っていたんですけど、こういう機会に詳しく知れて、また先生の個人的なことについても知れてとても楽しかったです。

平岡：井手先生はとても易しい言葉遣いで分かりやすく質問に答えていただきました。大変勉強になりました。進路について考える良い機会になりました。私は保健師になりたいので、一生懸命勉強したいと思います。ますます大分大学に入りたいと思いました。

田平：私は、先生が優しく丁寧に受け答えをしてくれて、本当に良い勉強になりました。先生の授業を受けてみたいと思いました。私は医療系、看護系を目指して今頑張っているんですけど、今日は、先生や先輩の話を聞いて、ますますそういう系の仕事に関わりたいと思いました。

橋本：私は最初、大学の先生って厳しいイメージがあったんですけど、今日話を聞いて、とても優しい方で、すごくイメージが変わりました。これから学校の授業でも、ちゃんと授業を理解していきたいと思います。今までは結構看護師の方になりたいと思っていたんですけど、先生の話を聞いて、すごく保健師にもなりたくなりました。

井手：思いがけず自分の専門のことや自分のこれまでのこととかを振り返ってお話をさせていただく機会を与えていただいて本当に良かったなと思っています。これをご縁に、ぜひ大分大学に来ていただくこと、お目にかかれることも楽しみですし、看護の仕事にますます関心を持っていただいて、これからの世の中のためにさらに活躍できるように力を付けていただけたらなというふうに思います。今日は本当にありがとうございました。

平野・平岡・田平・橋本：ありがとうございました。